

2022年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
国語	国語 1	中学 1	4	国語 1 光村図書 基礎の学習 1 漢字学習トレーニング5／4／3級 論理エンジン OS 1
担当者	久保・榊原	グレード		
		全		
学習目標	・「話す」「書く」「聞く」「読む」力をつけ、日常の生活に活かせるようにする。 ・「主体的、対話的で深い学び」を実践する。 ・漢字検定5級取得を目標とし、取得に向けた学習の中で語彙力を高めていく。			
授 業 計 画				
学期	区分	学習項目・単元等	学習のねらい	
1 学 期	中 間 考 査	物語「シンシュン」 説明「ダイコンは大きな根？」 論理エンジンOS1 プロローグ、レベル1、2 校訓の学習	・主人公の心情に共感しながら読み進める。 ・各段落の役割を理解し、要点をつかむ。 ・主語、述語、修飾語を的確に把握することで、文の要点をまとめる基礎を作る。 ・校訓をスムーズに音読できるようにする。 ・校訓に書かれている内容の大筋を理解する。	
	期 末 考 査	説明「ちょっと立ち止まって」 小説「星の花が降るころに」 論理エンジンOS1 レベル3、4	・段落のまとまりに注目し、要旨をまとめると共に、事例が主張に説得力を持たせていることを理解する。 ・場面と場面、場面と描写を結びつけて作品を読み深める。 ・単文・重文・複文といった文章の種類を見分けられるようにする。 ・指示語の読み取り方を理解し、手順を意識して解けるようにする。	

		内容	配点
	考 査 外 評 価	漢字テスト 単元小テスト 提出物等	10点 10点 10点
2 学 期	中 間 考 査	物語「大人になれな かった弟たちに」 古文・音読「いろは 歌」 古文・解説「古典の世 界」 古文「蓬萊の玉の枝」 論理エンジンOS1 レベル5、6	・描写に注目し、厳しい時代を生きた人物の姿を読み 取り、自らのものの見方や感じ方を見つめ直す。 ・古文を音読、暗唱する。を繰り返すことで、古文の 仮名遣いを覚えるとともに、古文独特のリズムを覚え る。 ・古典作品における「物語」を読み、その面白さを味 わう。 ・助詞、助動詞の働きを理解する。 ・文の作成や書き換えができるようにする。
	期 末 考 査	説明「幻の魚は生きて いた」 説明「『言葉』をもつ 鳥、シジュウカラ」 漢文「今に生きる言 葉」 論理エンジンOS1 レベル7、8	・段落のまとまりごとに要点をまとめ、著者の述べて いることを読み取る。 ・文章の構成や展開の効果を考え、筆者の意見とその 根拠の関係を理解する。 ・漢文のリズムに親しむ。 ・中国の古典に由来する言葉が、今でも生活の中に生 きていることを理解する。 ・今まで習った方法を用いて、解答の根拠を意識した 問題の解き方ができるようにする。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	漢字テスト 単元小テスト 読書感想文 その他提出物等	10点 10点 3点 7点
3 学 期	期 末 考 査	・物語「少年の日の思 い出」 ・説明「『不便』の価 値を見つめ直す」 論理エンジンOS1	・物語の展開や表現に注意しつつ、登場人物の価値観 を読み取る。 ・柔軟な発想力を養うと共に「深く考える力」を身に つける。 ・論理エンジンOS1 の総復習をする。

		レベル 9、10	
		内容	配点
	考 査 外 評 価	漢字テスト 単元小テスト 提出物等	10点 10点 10点

2022年度 年間指導計画

2022年度 年間指導計画				
教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
数学	数学1	中学1年	5	これからの数学1（数研出版 数学706） これからの数学2（数研出版 数学806）
担当者	長田・藤尾・久保田	グレード		定期テスト対策ワーク数学中1 （エデュケーショナルネットワーク）
		A・B 2グレード		定期テスト対策ワーク数学中2 （エデュケーショナルネットワーク）
学習目標	数を正の数と負の数にまで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に式に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養う。			
授 業 計 画				
学 期	区 分	学習項目・単元等	学習のねらい	
1 学 期	中 間 考 査	1章 正の数と負の数 正の数と負の数 加法と減法 乗法と除法 いろいろな計算 2章 文字と式 文字と式	正の数と負の数について具体的な場面での活動を通して、その四則計算ができるようにする。 文字を用いて関数や法則を式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養う	

	期 末 考 査	2 章 文字と式 文字式の計算 文字式の利用 3 章 1 次方程式 1 次方程式	文字を用いた式の計算ができるようにする。 方程式について理解する。 一元一次方程式を用いることができるようにする。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	課題の提出・発表等 小テスト	1 5 点 1 5 点
2 学 期	中 間 考 査	3 章 1 次方程式 1 次方程式の利用 4 章 比例と反比例 比例 反比例 比例と反比例の利用	一元一次方程式を文章題に利用することができるようにする。 具体的な事象の中にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。
	期 末 考 査	5 章 平面図形 平面図形 作図 円 6 章 空間図形 空間図形 立体の体積と表面積	平面図形についての理解を深める。 基本的な図形を、見通しをもって作図する能力を伸ばすとともに、平面図形についての理解を深める。 図形を観察，操作や実験を通して考察し，空間図形についての理解を深める。 図形の計量についての能力を伸ばす。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	課題の提出・発表等 小テスト	1 5 点 1 5 点

3 学 期	期 末 考 査	7 章 データの活用 データの整理とその活用 確率 ★中 1 の総復習 1 章 式の計算（数学 2） 式の利用 文字式の利用 2 章 連立方程式 連立方程式	目的に応じて資料を収集し，コンピュータを用いたりするなどして表やグラフを整理し，代表地や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。 中学 1 年生の内容の定着を確認する。 具体的な事象の中に数量の関係を見だし，文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに，文字を用いた式の四則計算ができるようにする。 連立二元一次方程式について理解しそれを用いて考察することができるようにする。
		内 容	配 点
	考 査 外 評 価	課題の提出・発表等 小テスト	1 5 点 1 5 点

2022 年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
英語	英語	中学 1 年	5	New Crown 1(三省堂) 中学必修テキスト ロイロノートスクール 英単語 コーパス 1800 ELST
担当者	1・2組 / 3・4組 山田英、ソマーズ、加山		A・B	
学習目標	・主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ・中学英語の基礎を身につける。 ・ICTを活用して、4技能の総合的な力を伸ばす。 ・ELSTを活用して、家庭学習の充実を図る。 ・中学初級程度の難易度である英語検定5級への全員合格を目指す。それ以上の級も積極的にチャレンジする。 ・ALT とのチームティーチングを通して、ネイティブ英語にたくさん触れていく。 ・発表・対話活動を通して、英語で発信する力をつけさせる。			
授 業 計 画				
学期	区分	学習項目・単元等	学習のねらい	
1 学期	中間 考 査	・クラスルーム英語 ・アルファベット ・Lesson1: About Me ・発表活動(2 人一組でロールプレイ。初めて会ったという状況での会話)	・授業中に頻繁に使う英語表現を理解し、行動できるようにする。 ・アルファベットのブロック体を正確に書けるようになる。 ・自分自身についての好きなものや趣味を英語で言えるようにする。 ・発表活動を通して、英語での自己表現力を高める。	

	考 査 外 評 価	・宿題（ワーク等）（指定の範囲） ・単語小テスト（コーパス指定の範囲） ・発表活動（2回） 自己紹介・ペアワーク	10点 10点 10点（各5点）
	期 末 考 査	・Lesson2：English Camp ・Lesson3: Our New Friend ・発表活動	・言葉だけでなく、様々な表現方法について学ぶ。 ・助動詞 can の働きを理解し、使いこなせるようにする。 ・疑問詞の理解を深め、How many ～なども使いこなせるようにする。 ・数字・序詞の働きを理解し、使いこなせるようにする ・発表活動を通して、英語での自己表現力を高める。
	考 査 外 評 価	内 容	配 点
		・宿題（ワーク等）（指定の範囲） ・単語小テスト（コーパス指定の範囲） ・発表活動（2回） ペアワーク・プレゼン	10点 10点 10点（各5点）
2 学 期	中 間 考 査	・Lesson4：My Family, My Hometown ・Lesson5: School Life in the U.S.A ・調べ学習、及び発表活動	・3人称・単数・現在を理解し、使いこなせるようにする。 ・イギリスやアメリカなどの文化に対する知識を増やし、関心を高める。 ・現在進行形を理解して使いこなせるようにする。 ・調べ学習、発表活動を通して、英文の理解力を高め、英語での自己表現力を高める。
	考 査 外 評 価	内 容	配 点
		・宿題（ワーク等）（指定の範囲） ・単語小テスト（コーパス指定の範囲） ・発表活動（2回） プレゼン・ペアワーク	10点 10点 10点（各5点）

	期末 考 査	・ Lesson6: Discover Japan ・ Lesson7 : Wheelchair Basketball ・ 発表活動	・ 過去形を理解して使いこなせるようになる。 ・ 英語のタウンガイドを作ることによって、自分の住んでいる町を紹介できるようにする。 ・ 日本の伝統文化に対する理解を深め、英語で発信できるようになる。 ・ 過去進行形を理解して使いこなせるようにする。 ・ 調べ学習、発表活動を通して、英語での自己表現力を高める。
	年間 指 導 計 画	・ 宿題（ワーク等）（指定の範囲） ・ 単語小テスト（コーパス指定の範囲） ・ 発表活動（2回） - プレゼン・ペアワーク	10点 10点 10点（各5点）
3 学 期	期 末 考 査	・ 総まとめ ・ Lesson8: Green Festival ・ Reading for Fun “Alice and Humpty Dumpty ・ 発表活動 ・ スペリングコンテスト	・ 未来形を理解して使いこなせるようにする。 ・ これまで学んだ文法事項の理解を徹底させる。 ・ たくさんの英文に触れ、内容を把握できるようになる。 ・ ある事柄に関する自分の考えを英語で伝えることができるようになる。 ・ スペリングコンテストに向けて、単語力の強化を図る。
	考 査 外 評 価	内 容	配 点
		・ 宿題（ワーク等）（指定の範囲） ・ 単語小テスト（コーパス指定の範囲） ・ 発表活動（2回） - ペアワーク・スピーチ	10点 10点 10点（各5点）

2022年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
英語	OC	中1	1	オリジナルオンライン教材 iPad ノート
担当者	ネイサン・ソマーズ、水野カサンドラ、 岩崎喜和、 カレン・シエ			
学習目標	多様な会話表現や語彙を増やすとともに、過去に学習した内容を活かして、思考力・判断力・自己表現力を発達させ、楽しみながら実践的な英語表現力を育成する。基本文法や表現を練習する MUST・SHOULD・COULD の3段階のレベルになっている課題に取り組み、生徒それぞれに合わせた英語能力を伸ばす。特に、生徒自ら多様な手段を用いて学習する能力の育成を重点に、iPad のさまざまな方法での活用と、ノートを用いることでデジタルと英語のリテラシーをバランスよく育てる。			
授 業 計 画				
学期	区分	学習項目・単元等		学習のねらい
1 学 期	中 間 考 査	① オリエンテーション ② Greetings（英語で挨拶する） ③ [s],[th],[sh]の発音を学習する ④ 形容詞（類語）簡単な慣用句を学習する。		・生でのネイティブスピーカによる指導に加え、オリジナル動画に沿って声を出してシチュエーションに応じた英語を音から身に付ける。 ・英語の授業でよく使う表現「Can you say～？ Repeat after me. Let's Practice」などの意味に慣れて適切に反応する。 ・発音に注目し、日本語ではない発音を訓練する。
	期 末 考 査	⑤ 動詞を学ぶ ⑥ Hobby Conversation （趣味について英会話） I (listen/don't listen to music). Do you～？ Yes, I do/No, I don't. I can/can't～. Can you ～？ Yes, I can/No, I can't.		・英語の動詞をたくさん覚えるようゲームやロールプレーを通して学校生活でよく使う動詞を分かるようになる。 ・趣味や普段やっていること・できることについて話したり、他者に尋ねたりできるようになる。

2 学 期	中 間 考 査	① Food の英単語を学ぶ ② 「r」と「l」の発音を学習する ③ 食べ物について話すときに使う英語を学習する：I like/I love～・I don't eat～/I can't eat～ ④ 「How is it?」プチ劇発表	・複数形、単数形の食べ物の違いを分かるようになる ・食べ物の単語を復習しながら「l」と「r」の発音を練習する。違いが区別できるようになる ・発表力に関する項目（声、発音、表現力、姿勢）にペアで力を入れる。
	期 末 考 査	⑤ 語彙：Animals・Adjectives 動物の特徴について話す。 ⑥ 発音：v,b,f, 母音 ⑦ 「My New Monster」発表 生徒自身が思いついたモンスターを紹介する。	・動物の名前を復習しながら形容詞を学習する。 ・特に難しい発音を舌の動きに注目して練習する。 ・単語を増やして自分が知りたい単語を提案してもらう。 ・創造力を働かせて、iPadでおもしろいモンスターを描き、それについて英語で暗記して発表する。
3 学 期	期 末 考 査	① The World 世の中にある大陸と国について学ぶ。 ② 「Country Poster」発表 一つの国についてリサーチ、ポスターと発表をする。 ③ 英語音声と英語字幕で映画を見る。	・前から持っている知識を英語で引き出させる。 ・iPadでリサーチスキルを使って色んな情報を調べる。その情報を整理して創造的なポスターを作って英語で発表させる。 ・分かりやすい洋画をフルでみて理解度に挑戦する。

2022 年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
社会	地理	中 1	4	【教科書】 帝国書院『中学生の地理』 『中学校社会科地図』 【副教材】 帝国書院『アドバンス中学地理資料（東京都版）』
担当者	新宿仁洋 三岡恵子	グレード		
		なし		
学習目標	①日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って日本の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、日本の国土に対する認識を養う。 ②日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとの関係でとらえ、それを環境条件や人間の営み等と関連づけて考察し、地域的特色をとらえるための視点・方法を身につけさせる。 ③日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性や一般的共通性があること、またそれらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。			

授 業 計 画

学 期	区 分	学習項目・単元等	学習のねらい
1 学 期	中 間 考 査	地球・大陸と海洋 世界の国々の名前や位置 世界の国々と州 世界の国々（国旗・面積・人口・国境線・島国・内陸国） 緯度と経度 緯度と季節の関係 地球儀と世界地図 世界の略地図の書き方	・ 6大陸と3大洋の大まかな形状・位置関係をとらえさせる。 ・ 主な国の名称・位置を地図を用いて身につけさせる。（国の選択は適度に世界に広がって分布するように配慮する） ・ 主な国の国境線を取り上げ、国境線の種類（自然的・人為的）やその役割を理解させる。 ・ 緯度・経度の仕組みを理解し、地球上の任意の地点を表現できるようにさせる。 ・ 気候や季節の変化や北半球と南半球の季節の逆転を、地球の地軸の傾き・公転・自転などに関連付けて理解させる。 ・ 地球儀や世界地図の長短に留意したよみとりを中心にその活用方法を身につけさせる。 ・ 赤道・本初子午線などに留意しつつ大陸の形状や位置関係大まかに示されている程度の世界の略地図を描けるようにする。

期 末 考 査	世界各地の市場の様子 暑い地域の暮らし 乾燥した地域の暮らし 寒い地域の暮らし 高地の暮らし 世界の衣食住 宗教と生活	・世界各地の人々の生活と環境の多様性を，自然及び社会的条件と関連づけた人々の生活の様子とその変容をもとに，多面的・多角的に考察し，適切に判断できるようにする。 ・世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から，有用な情報を適切に選択し，読み取れるようにする。
	①アジア州 （自然・人口・農業・工業）	①アジアの範囲及び地域区分,地形と気候についてその特色を理解させる。 ・多様な文化と民族構成及び人口分布について,宗教や自然との関わりから考えることができるようにする。 ・農業の特色について,降水量との関連を考え,基本的事項を理解できるようにする。 ・工業の特色を,外国企業の進出との関連から考えることができるようにする。
	②ヨーロッパ州 （自然・文化・産業）	②ヨーロッパ州全体の文化（宗教と言語）の共通性と異同の存在を理解する。 ・E Uのしくみと加盟国の人々の生活，課題について理解し、E Uが目指す方向性を推察できるようにする。
	③アフリカ州 （自然・歴史・文化・社会）	③アフリカ州の文化・言語・宗教が,ヨーロッパ諸国の植民地であった歴史と関わりが深いことに気づかせ、産業について,輸出に依存する農産物・鉱山資源の背景として,植民地の歴史との関連から追究できるようにする。
	内容	配点
考 査 外 評 価	ノート	10 点
	ワーク	10 点
	課題レポート	10 点

2 学 期	中 間 考 査	④北アメリカ州 (自然・民族・生活・文化) ⑤南アメリカ州 (自然・歴史文化・農鉱工業) ⑥オセアニア州 (自然・産業) 日本の位置 日本の範囲 地域区分 自然環境の特色 (地形・気候) 人口の特色 資源・産業の特色 (第1次～第3次産業) 地域間の結びつき	④西経100度を境に,東と西で地形及び気候の特色が分けられることに気づかせる。 ・アメリカを事例に,移民の歴史と多様な民族による多文化社会になったこと、またそれに伴う諸問題について意見を持てるようにする。 ・農工業を事例に,世界をリードする北アメリカ州の産業の特色を把握できるようにする。 ⑤南アメリカ州の地形と気候の特色について,基礎的な事項を理解できるようにする。 ・スペインとポルトガルによる植民地支配がこの地域に及ぼした影響を理解する。 ・農産物や鉱産物の輸出に依存してきた産業が環境問題との関係から変化している点を理解する。 ⑥オーストラリアの降水量と農牧業の関係を理解させる。 ・オーストラリアの歴史から、移民の歩みと移民政策の変化による近年の多文化社会について考えさせる。 ・日本の領域に関する基礎的事項を理解し,緯度や経度、その他の地名などを用いながら、日本の範囲を表現できるようにする。 ・北方領土と竹島の問題について,我が国の主張とロシア・韓国の対応について考えさせる。 ・日本を区分するさまざまな視点を知り、さまざまな地方区分があることを理解するとともに,日本の略地図を描けるようにする。 ・世界の山脈が連なる造山帯の中に位置し,地震や火山が多い日本の山地の特色を理解させる。 ・平野の種類として,扇状地、台地、三角州の構造と特徴に着目させる。 ・写真や雨温図から日本の気候区分が6つの地域に分けられることを理解させる。 ・人口ピラミッドの変化から日本が少子高齢社会になったことと、そのことが人々の生活に及ぼす影響について考えさせる。 ・世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解し、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を考え、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を把握できるようにする。 ・日本の農業・林業・漁業の現状と課題を理解する。 ・日本のおもな工業地域が太平洋ベルトに集中する理由と日本の企業が海外に進出する理由を考えさせる。 ・産業別人口に占める第3次産業の割合を都道府県別
-------------	------------------	---	--

		に調べさせ、割合の高い都道府県の要因を考えさせる。 ・日本は交通や通信で世界とどのように結びついているか、物、人、情報の三つの観点から考えさせる。
期 末 考 査	①九州地方 （自然・農業・都市と工業・沖縄） ②中国・四国地方 （交通網の発達と地域の変化） ③近畿地方 （大都市圏・工業・環境保全・古都の環境保全・農林水産業）	①大陸に近いという観点から、福岡の位置と役割、北九州工業地帯の歩みと九州地方の工業の現状について考えさせる。 ・気候を生かした平野部の農業とシラス台地での畑作・畜産の有利性について着目させる。 ・独特の文化や生活の特色をもつ沖縄の歴史を、古くからのアジアとの交流や軍事基地の観点から考えさせる。 ②中国・四国地方は、本州四国連絡橋の開通や、山陰や南四国で高速道路の整備が進んだことから、どのような変化が生じたか考えさせる。 ・高知平野の農業、山陰地方の観光を事例として、高速道路の開通によって地域の産業にどのような影響があったかを調べさせる。 ③大阪・神戸のそれぞれの都市の特色と琵琶湖の水が果たす役割を理解させる。 ・地下水くみ上げによる地盤沈下や工場の排煙による大気汚染など、古くからの環境問題や新しい取り組みに着目させる。
	内容	配点
考 査 外 評 価	ノート ワーク 課題レポート	10 点 10 点 10 点

3 学 期	期 末 考 査	④中部地方 (大都市圏・工業・農業・気候と産業) ⑤関東地方 (大都市圏・人口／都市問題・工業・周辺地域) ⑥東北地方 (農業と伝統行事・生活の変化と産業) ⑦北海道地方 (開発史と都市・自然と農業・漁業の変化)	④中部地方を北陸、中央高地、東海の三つの地域に分け、それぞれの地域の自然環境の特色を調べさせる。三つの地域の工業・農業の特色がそれぞれどのように異なるかを理解させる。 ・東海ではなぜ輸送機械工業がさかんになったのか,歴史的背景や結びつきに着目して調べさせる。 ・中央高地の養蚕から果樹栽培の変化については,地図帳などで戦前と現在を比較させ,桑畑から果樹園に変化したことを実感させる。 ・雪深い北陸での米作りの工夫や,地場産業や伝統的工芸品の製造,観光など,産業の特色を雪との関わりから調べさせる。 ⑤首都東京の機能と特色について理解する。 ・都市問題の実際の様子を調べさせ、都市問題が発生した理由を多面的に考えさせる。 ・関東地方において工業の発展とともに人口が集中し,工業地域が拡大してきたことを調べさせる。 ・関東地方の農業地域や山間部の様子を,近郊農業や過疎化への取り組みに着目して調べさせる。 ⑥東北地方の伝統行事と農業との関係を理解する。 ・東北地方で伝統的工芸品が発展してきた背景を調べさせる。また、高速道路などの開通で工業が発展したことを調べさせる。 ・東北地方に残る伝統的な町なみの様子と中心都市仙台の様子を理解させる。 ⑦北海道の独特な地名とアイヌの人々の文化との関わりに気づかせ,明治以降の開拓の歴史を調べさせる。 ・北海道のきびしい自然の様子、それを克服して発展してきた農業を十勝平野や根釧台地などを事例として調べさせる。 ・排他的経済水域や北方領土問題が北海道の漁業に影響を及ぼしていることに気づかせる。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	ノート ワーク 課題レポート	10 点 10 点 10 点

2022年度 年間指導計画

教科		科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
理科		理科	中学1年	4	大日本図書 理科の世界 1 keyワーク 1年
担当者	1組 佐藤 克吉 3組 浅岡 弘和 2組・4組 宮田 陵		グレード		
学習目標		自然に対する関心を高め、観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。SDGsについても取り込んでいく。			
授 業 計 画					
学 期	区 分	学習項目・単元等		学習のねらい	
1 学 期	中 間 考 査	単元1 生物の世界 1章 身近な生物の観察 2章 植物のなかま 3章 動物のなかま		植物・動物の体のつくりを理解し、植物・動物の種類やその生活についての認識を深める。またそれぞれの特徴から分類し、つながりを理解する。	
	期 末 考 査	単元2物質のすがた 1章 いろいろな物質		身の回りの物質についての観察、実験を通して物質の成り立ちや性質を理解する。	
		内容		配点	
	考 査 外 評 価	・ワーク ・授業中課題 (実験プリント等) ・小テスト		各10点(ワークは中間5点、期末5点)	
2 学 期	中 間 考 査	2章 気体の発生と性質 3章 物質の状態変化 4章 水溶液		1学期から引き続き、固体や液体、気体の性質、物質の状態変化について理解させるとともに、物質の性質や変化の調べ方の基礎を身につけさせる。	

	期 末 考 査	単元3 身近な物理現象 1章 光の性質 2章 音の性質 3章 力のはたらき 単元4 大地の変化 1章 火山	身近な事物・現象についての観察、実験を通して、光、音の規則性、力の性質について理解させるとともに、これらの事象を日常生活と関連づけて科学的にみる見方や考え方を養う。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	・ワーク ・夏休みの宿題 ・授業中課題 （実験プリント等） ・小テスト	・ワーク 10点 ・夏休みの宿題 5点 ・授業中課題 10点 ・小テスト 5点
3 学 期	期 末 考 査	単元4 大地の変化 2章 地震 3章 地層 4章 大地の変動	大地の活動のようすや身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、地表に見られるさまざまな事物・現象を大地の変化と関連づけて理解させ、大地の変化についての認識を深める。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	・ワーク ・授業中課題（実験プリント等） ・小テスト	・ワーク 5点 ・授業中課題 15点 ・小テスト 10点

2022年度 年間指導計画				
教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
技術・家庭	家庭	中学1年	1	開隆堂
担当者	平山	グレード		
		無し		
学習目標	自ら学び・考える力を養うために、実習を多く取り入れ、基礎的な技術を身につける。			
授 業 計 画				
学 期	区分	学習項目・単元等	学習のねらい	
1 学 期		●食生活 ・身の回りの食事と地域の食文化について知識を深めよう ・健康と食生活 ・地域の食材と食文化 ・家庭料理技能検定5級 ●作品作り	自分を中心とした食生活について考える。 伝統的な食文化を知る。 手縫いの基礎を習得する（予定）	
		内容	配点	
	考 査 外 評 価	家庭料理技能検定5級 レポート 課題	5 点 2 0 点 2 5 点	

2 学 期		●作品作り ●食生活 ・健康と食生活 ・食品の選択と保存 ・家庭料理技能検定 5 級	作品を作成する。（予定） 自分を中心とした食生活について考える。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	課題・レポート 作品 家庭料理技能剣千絵	1 5 点 4 0 点 5 点
3 学 期	期 末 考 査	●住生活 ・住まいのはたらき ・家族とともに住まう ・健康で快適に住まう ・調理室の使い方 ・家庭料理技能検定 5 級 ●調理実習（予定）	自分の身近なところである家から広がる生活空間について考える。 本校の調理室の使い方を知る。
		内容	配点
	考 査 外 評 価	家庭料理技能検定 5 級 レポート 課題	5 点 2 0 点 2 5 点

2022年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
技術・家庭	技術	中学1年	1	開隆堂 技術・家庭 技術分野
担当者	小松原靖之			

学習目標	栽培分野・製図などへの取り組みをとおして、生産活動の初歩的な技術にふれる。 また、情報分野ではコンピュータの活用方法・タイピング能力の向上をはかるだけでなく、コンピュータのしくみや構造などについても理解をすすめる。通年の毎日パソコン入力コンクールへの参加をとおして、事務的な作業に十分耐えうるタイピングスキルの習得を目標とする。
------	--

授 業 計 画

学 期	区 分	学習項目・単元等	学習のねらい
1 学 期	中 間 考 査	B 生物育成の技術 生活や社会と生物育成の技術 さまざまな生物育成の技術 生物育成の技術による問題解決	身の回りの生物がどのように私たちの生活に役立てられているかを学び、それぞれの生物を育成する際の技術を理解する。
	期 末 考 査	D 情報の技術 情報の表現と伝達 情報モラル (タイピング)	iPadをもちいて学習のまとめを行い、スライドでの発表やまとめ動画の作成方法を学ぶ。その際、情報モラルについても触れ制作をおこなう。 2年間通してタイピング練習を行う下地として、タッチタイピングの考え方を確認する。
2 学 期	中 間 考 査	A 材料と加工の技術 設計・製図	ものづくりの基本として、立体を正確に書き表す方法について理解する。

	期 末 考 査	D 情報の技術 コンピュータ上での製図（CAD） タイピング	iPad上で3Dデータのモデリングを行う。またデータから、3Dプリンタを通して実際に立体を作れることを理解する。 タイピングの習熟を目指す。
3 学 期	期 末 考 査	D 情報の技術 生活や社会と情報の技術 情報とコンピュータ 情報の表現と伝達	iPadをはじめ、コンピュータが動作するしくみを理解する。また、外部との通信がどのように行われているのか概要をつかむ。

2022年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
芸術	音楽	1	2	・中学生の音楽Ⅰ ・中学生の器楽
担当者	渡邊 純子			・Super Chorus ・アルトリコーダー
学習目標	・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。 ・多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる			
授 業 計 画				
学期	区分	学習項目・単元等	学習のねらい	
1 学 期	中 間 考 査	・歌唱：学園歌 ・鑑賞・歌唱：『浜辺の歌』 ・歌唱：2部合唱『明日という大空』 混声3部合唱『Tomorrow』 ・強弱記号	・学園歌・聖徳太子讃歌の歌詞を覚え、これから6年間生活する学校に思いを馳せる。 ・曲の背景や情景などを調べ、思いを込めて歌うことができる。 ・ハーモニーを感じて歌詞の内容を味わう。 ・強弱記号を理解し、記号に則した表現ができる。	
	期 末 考 査	・鑑賞：『魔王』 ・器楽：アルトリコーダー	・伴奏とメロディーと歌い方によって歌詞の世界をどのように表しているか感じ取る。 ・アルトリコーダーの運指（ドレミファソラシド）を覚える。 ・タンギングの技術を身につける。 ・曲に適した息をコントロールし、音色に注目して演奏表現する。	
2 学 期	中 間 考 査	・混声3部合唱『変わらないもの』 ・鑑賞・歌唱：『赤とんぼ』 ・鑑賞：『春』	・パートリーダーを中心に練習を進めることができる。 ・歌詞に合った歌い方を工夫することができる。 ・歌詞の内容を味わいながら歌う。 ・情景を思い浮かべながら歌う。	

			・バロック音楽誕生の背景や、ソネットと音楽の関係について理解を深める。
	期 末 考 査	鑑賞：映画音楽。現代音楽 創作：ガレージバンドを使ってBGMを作ろう 歌唱：合唱コンクール自由曲	・映像と音楽の関係性を知る。 ・楽曲には様々な表現方法があるという事を知る。 ・鑑賞の知識も参考にしながら、様々な楽器の音を使って、映像に合うBGMを作成する。 ・コンクールに向けて表現を探究する。
3 学 期	期 末 考 査	歌唱：『COSMOS』 鑑賞：『オペラ』	・パート練習でお互いの考えを理解しあいながら進める ・曲想の変化に気づき表現を工夫できる。 ・物語が音楽によってどう表現されているのか感受し、楽器の音色や音楽の構成にも着目しながら全曲を通して聞く。

2022年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
美術	美術	中学1年	2	日本文教出版 美術 1 浜島書店 新造形と美術 配布プリント等
担当者	水野カサンドラ			

学習目標	美術の制作する楽しさを感じながら学べるよう、幅広く対応する柔軟な題材と指導を行い、美術に対しての興味、関心を高める ・ 自らの発想意図を形にする芸術的表現の工夫を身につける。 ・ クリティカルな思考力、判断力、自己表現力を育てる。
------	---

授 業 計 画

学 期	区 分	学習項目・単元等	学習のねらい
1 学 期	中 間 考 査	① 鉛筆デッサン・グレースケール・立方体・球体 ②美術の要素について学習 ③色彩の基本について学習（絵の具・色鉛筆を使用）	①描画材の使い方を理解し、対象物を立体的に描けるようにする。 ②対象物(モチーフ)を立体的に描けるようにする。 ③作品を分析するスキルを育成する ④色彩の基本を理解し、その知識を実践の中で専門用語を適切に用いながら運用する力を身につける。 ・色彩についての基礎知識・水彩色鉛筆・水彩絵の具
	期 末 考 査	④空気遠近法（絵の具・キーノートを使用） ⑤レタリング	⑤混色のスキルを高める ⑥明朝体・ゴシック体を認識し、描く技能を習得する。 ⑦印象に残る絵柄や簡潔な言葉を配置することで、伝えたい内容を見る人に印象強く伝えることができる。

2 学 期	中 間 考 査	①線遠近法について学習	①1点、2点、3点透視図法を用いた画を描く技術を身につける。
	期 末 考 査	②映画制作に向けて ③コマ撮り動画導入 ・絵コンテ制作 ・コマ撮り動画制作に必要な技術の習得。 ・シーン1～2まで制作	②メディア芸術の要素を理解し、実践どう適切に用いるか考えたり分析したりする力を高める。 ③動画制作に必要な絵コンテ制作を行う。
3 学 期	期 末 考 査	①映画制作 コマ撮り動画制作続き	①物体で物語を作ることを通して、観客に伝えたいことをどうすればより効果的に伝えることができるのかを考え、表現する力を身につける。

2022 年度 年間指導計画

2022 年度 年間指導計画				
教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
総合	STEAM	中学 1 年	1	独自教材
担当者	横濱友一 鶴岡裕一郎	習熟度クラス		
		なし		
学習目標	1.心の教育（コミュニケーションの作法） 2.ICT リテラシーの育成 3.STEAM 的な視点から創造的思考力を身に着ける 4.プログラミングを通して論理的思考を身につける			
授 業 計 画				
学 期	区 分	学習項目・単元等	学習のねらい	
1 学期	中間 考 査	・ 各種 ICT サービスの特徴・使用方法 ・ SNS でのふるまいについて ・ iPad マニフェスト ・ ペーパータワー ・ フリー・フォール・エッグ	・ デバイス（iPad 等）との適切な距離感・有用性を理解し、正しく活用できるようになる。 ・ SNS 上での自らの言動を振り返り、大勢の人間が参加するコミュニティでのふるまい方をまなぶ。 ・ いままで話したことがないような仲間とのコミュニケーションや作業の進行を体験する事で、グループワークの作法やコツを学ぶ。 ・ 考えもしなかった問題に対して、自分たちなりの答えを導き出す経験を通して、「正解のない問い」に挑戦する姿勢を育む。	
	期末 考 査	・ パソコン, iPad, AI と私たちとの違い ・ 伝言ゲーム ・ 日本語でプログラミング ・ プ ロ グ ラ ミ ン グ （ Swift Playgrounds）	・ 電子デバイスや AI と自分たちを比較することによって、双方の得手不得手を理解し、iPad やパソコンの正しい使用方法を模索する。 ・ iPad 向けプログラミング学習ツール「Swift Playgrounds」に取り組むことで、プログラムで使われる基本構文を理解する。 ・ プログラムを組む過程で、論理的に物事ごとを考え、結論を導く能力を養う。	
2 学期	中間 考 査	・ もっと〇〇だったらなあ	・ 自動車やバイクなどの発明過程を学ぶことを通して、日常生活の中の不便を、自ら解決できるようになるための素養を養う。 ・ 自分にとっての「理想状況」を考え直し、「どうすれば」理想状況が叶うのかアイデアを考える。	
	期末 考 査	・ キーワード「SDGs」について調べ学習 ・ 個人プレゼンテーション ・ 脚本,絵コンテ作成 ・ 映画製作	・ 「SDGs」をキーワードとし、具体的な例から自分たちにできることはないか考えることによって、社会貢献の精神の獲得を目指す。 ・ 自分の興味関心をもとに調べたものを他人に伝えることの喜び、豊さ、難しさを体感する。 ・ 物語制作を通し、物事を論理的に理解し、順	

			序立てて説明する力を養う。
3 学 期	期 末 考 査	・映画製作 ・聖徳映画祭	・映画製作を通して、クリエイティブな能力を育成し、必要な技術や ICT スキルを自らまなぶことができるように促す。 ・PBL 型の授業を通して、周囲との円滑なコミュニケーションをとりながら、スケジュール通りに一つの作品を作り上げていく経験を得る。 ・映画祭という舞台で、チームで製作した作品のプレゼンテーション発表の機会を通し、年間を通して体験してきたことの振り返り、自分たちの考えや伝えたいことを言葉や作品に置き換え表現できる力をつける。

2022年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
総合	総合(知能開発)	中学1年	1	独自教材
担当者	峯岸 竹内 亀田 藤尾 岩崎	グレード		
		なし		
学習目標	大脳を刺激し、大脳の活性化をさせる			
授 業 計 画				
学期	学習項目・単元等		学習のねらい	
1 学 期	・ 自己紹介折り句 ・ 学校探検 ・ オセロ・将棋 ・ 意味上のしりとり ・ 穴あき折り紙 ・ 能力検定 ・ 自由研究に向けて		ギルフォードの知能構造理論に基づき、多様な知能因子を刺激し、知識や情報および技能を活用する能力を育てると共に、創造力や、問題解決能力を伸ばす。 また、洞察力や総合的な判断力を伸ばす。	
2 学 期	・ 自由研究の発表会 ・ 暗号解読 ・ 数独 ・ 魔方陣 ・ 数式作り ・ 共通点の発見と物の利用法		ギルフォードの知能構造理論に基づき、多様な知能因子を刺激し、知識や情報および技能を活用する能力を育てると共に、創造力や、問題解決能力を伸ばす。 また、洞察力や総合的な判断力を伸ばす。	
3 学 期	・ 分類の工夫 ・ 百人一首 ・ 隠された積み木 ・ 漢字パズル ・ 能力検定		ギルフォードの知能構造理論に基づき、多様な知能因子を刺激し、知識や情報および技能を活用する能力を育てると共に、創像力や、問題解決能力を伸ばす。 また、洞察力や総合的な判断力を伸ばす。	

2022 年度 年間指導計画

教科	科目	指導学年	単位数	使用教科書・副教材
保健体育	体育	中学 1 年	2	中学校保健体育（大修館）
担当者	吉・亀井・濱中		グレード	
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。			

授 業 計 画

学 期	学習項目・単元等	学習のねらい
1 学期	A 「バスケットボール」 《初めの段階》 パス・シュート ドリブル・ピボット オフェンス・ディフェンス ピボット・リバウンド 「体づくり」 筋力・瞬発力・筋持久力・全身持久力・調整力・柔軟性 ★体育理論 運動やスポーツの必要性和楽しさ	・基本動作と基本技術を習得し、バスケットボールの楽しさを知る 力強い動きを発揮する能力・動きを持続する能力・たくみな動きを発揮する能力を高める
2 学期	B 「サッカー」 《初めの段階》 ボールの蹴り方 （キック） ボールの止め方 （トラップ） ドリブル パス 「陸上」 短距離・リレー・ハードル走・走り幅跳び・走り高跳び ★体育理論 運動やスポーツへのかわり方	・基本動作と基本技術を習得し、サッカーの楽しさを知る ・走る・跳ぶ・投げるなどの最も基本的な動作を習得し記録に挑戦したり、競争したりして楽しさを知る。 ・基本動作と基本技術を習得し、ソフトボールの楽しさを知る
3 学期	C 「ソフトボール」 《初めの段階》 基礎技術 ・ キャッチボール（いろいろなキャッチング） 守備技術 ・ キャッチング スローイング ★体育理論 運動やスポーツの学び方	

履修種目順番

男子 A：バスケットボール・体づくり、陸上・サッカー、ソフトボール

B：ソフトボール、バスケットボール・体づくり、陸上・サッカー

女子 陸上・サッカー、ソフトボール、バスケットボール・体づくり

◇ 評価の観点と方法について

- ・ 教師が主観的に出来・不出来を見るのではなく、スキルテストによる評価を中心とする。
- ・ スキルテスト 60％，取り組み（出席・活動）40％

◇ 具体的な学習活動について

- ・ 自己の目標をきめ、目標達成を目指す活動とする。
- ・ 仲間と努力しながら目標の達成を目指す活動とする。

◇ 指導の留意点について

- ・ 安全性の確保の下に、自主的・積極的な活動となるよう指導する。
- ・ 諸活動の充実のための資料提供・アドバイス等を随時行い、運動の意欲を高めるための適切な指導ができるようにする。
- ・ 基本から応用への指導ができるようにする。
- ・ イメージづくり
- ・ 毎時間、基本技術は導入段階で反復練習として指導する。
- ・ 技術向上に必要な体力トレーニング

◇ 評価 実技 80％：理論 20％